

3. 定点把握対象感染症患者報告状況(週報)

(1) 過去5年間の報告状況

疾患名	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
インフルエンザ	21,983	1,467	5,686	11,784	8409
RS ウイルス感染症	398	1,604	1,320	1,302	1861
咽頭結膜熱	276	185	458	490	285
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	945	652	1,449	1,807	1121
感染性胃腸炎	6,137	8,997	7,791	9,263	8820
水痘	1,513	1,639	1,612	1,765	1101
手足口病	544	1,000	2,819	151	1574
伝染性紅斑	34	33	729	448	19
突発性発しん	686	703	743	1,037	959
百日咳	19	18	32	19	10
ヘルパンギーナ	429	1,423	1,216	648	1056
流行性耳下腺炎	399	1,444	1,777	720	193
急性出血性結膜炎	—	2	—	1	1
流行性角結膜炎	24	31	19	21	22
細菌性髄膜炎	—	10	5	2	3
無菌性髄膜炎	—	2	11	9	9
マイコプラズマ肺炎	6	43	88	55	17
クラミジア肺炎	—	1	—	—	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ¹⁾					1

¹⁾ 平成 25 年より定点把握対象感染症に指定された。

(2) 各疾病の報告状況

① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

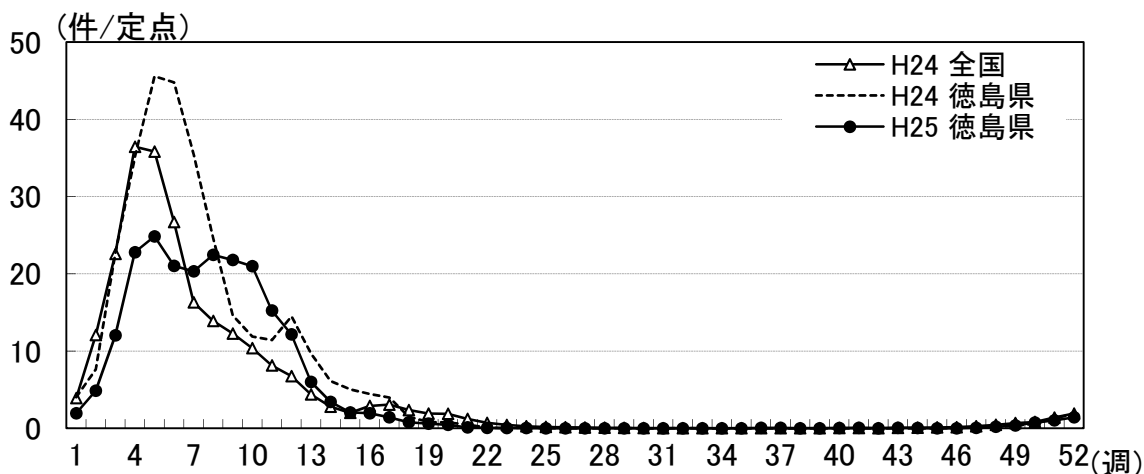
年間報告数は8,409件であり、前年（11,784件）より減少した。

本年の前期は、前年末より増加し始めた報告数が第1週より急増し、第5週にピーク（24.5件／定点）を迎えた後、第10週（21.0件／定点）まで高い状態が続き、以後減少した。ピークの高さは前年（45.6件／定点）と比べ低かったが、警報・注意報の発令期間（第3～13週）は前年（第3～12週）より長く続いた。

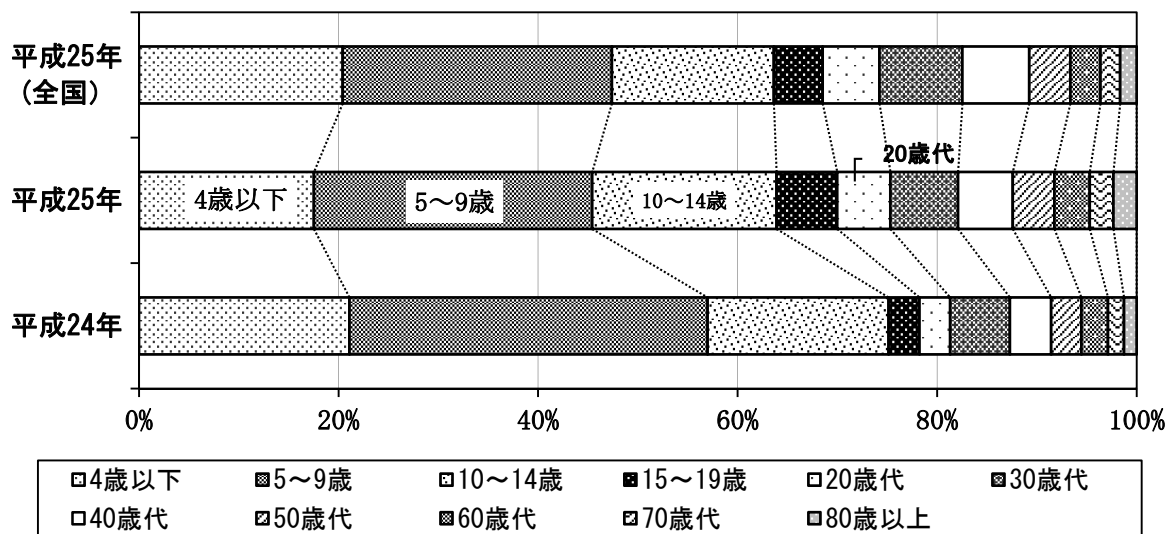
後期は第47週より報告数が上昇し始め、流行開始の目安とされる1.0件／定点を第51週（1.03件／定点）に超え、翌年の流行シーズンを迎えた。

年齢層別報告数では、4歳以下17.5%、5～9歳27.9%、10～14歳18.5%、15～19歳6.1%、20歳以上30.0%であり、前年と比較して20歳以上の割合が増加していた。

インフルエンザの週別患者報告状況



インフルエンザの年齢層別報告数



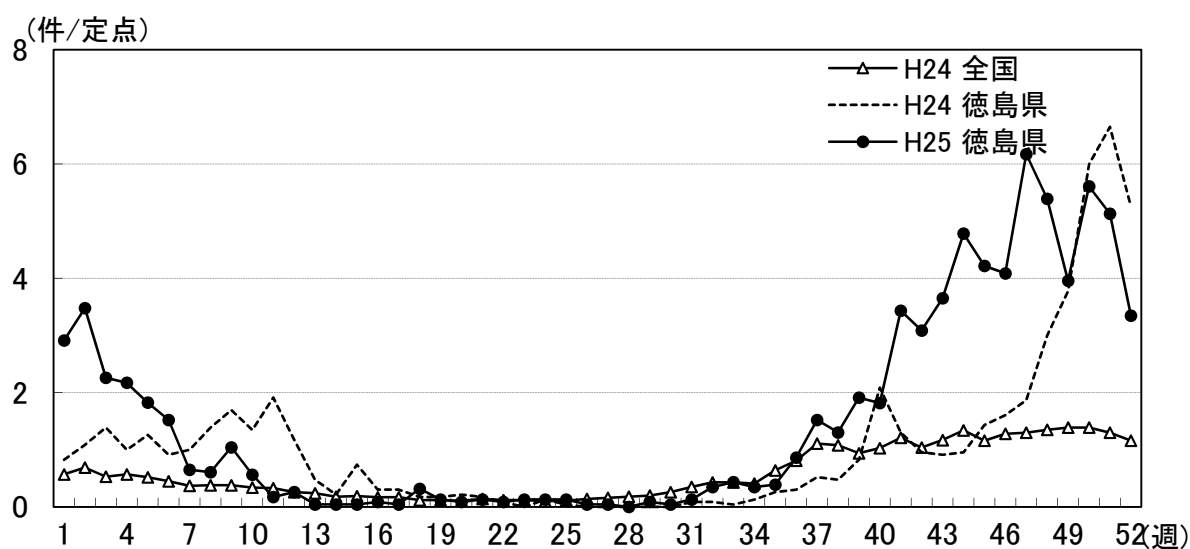
② RS ウイルス感染症

年間報告数は1,861件であり、前年(1,302件)と比べ大きく増加し、過去5年間で最も多い報告数となった。

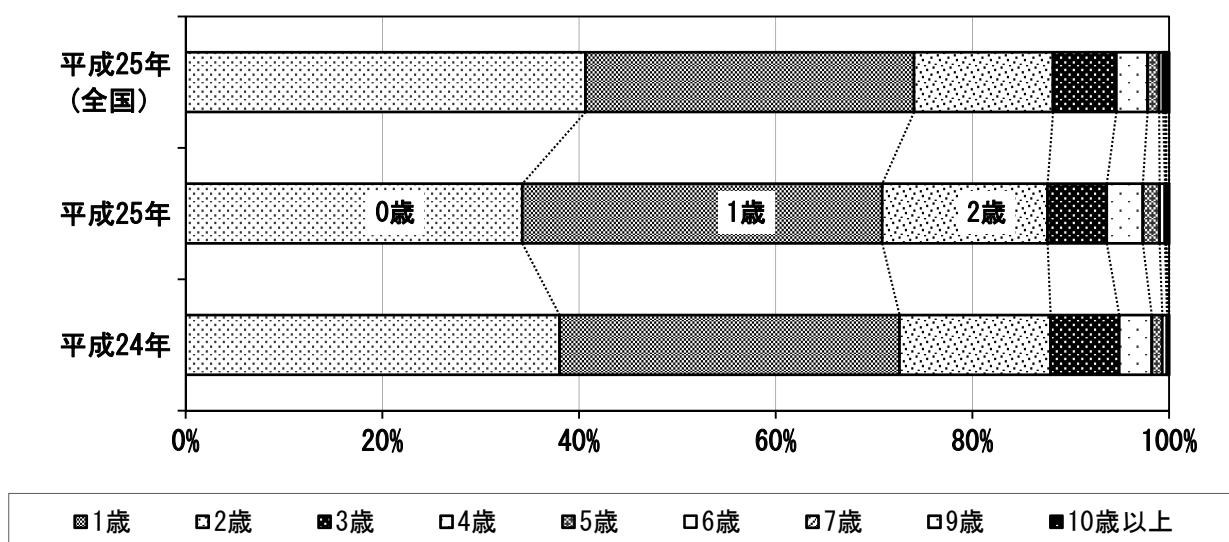
前期は、前年の後期流行を継続したまま、第11週まで報告数の高い状態が続いた。後期流行も、前年同様、例年より約2ヶ月早い8月下旬より報告数が増加し始め、第47週にピーク(6.2件/定点)を迎えるなど流行期間が長く、全国平均を大きく上回る報告数のまま、翌シーズンを迎えた。

年齢層別報告数では、0歳34.2%、1歳36.6%、2歳16.8%、3歳以上12.4%であり、前年と同様に2歳以下の割合が約90%を占め、乳幼児に多発する傾向が見られた。

RS ウイルス感染症の週別患者報告状況



RS ウイルス感染症の年齢層別報告数



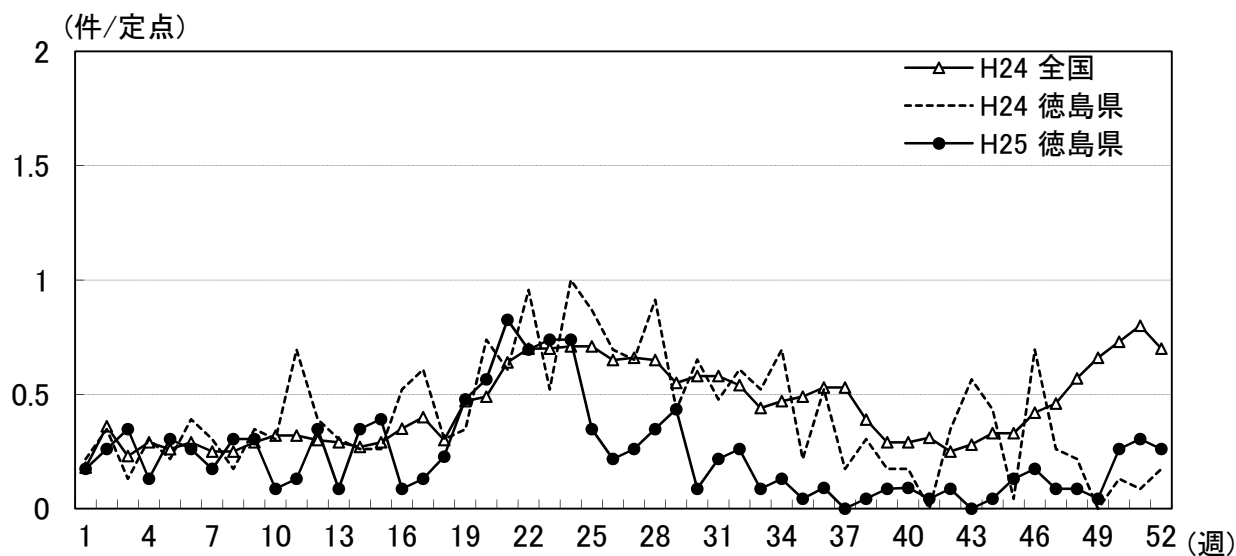
③ 咽頭結膜熱

年間報告数は285件と、前年（490件）より減少した。

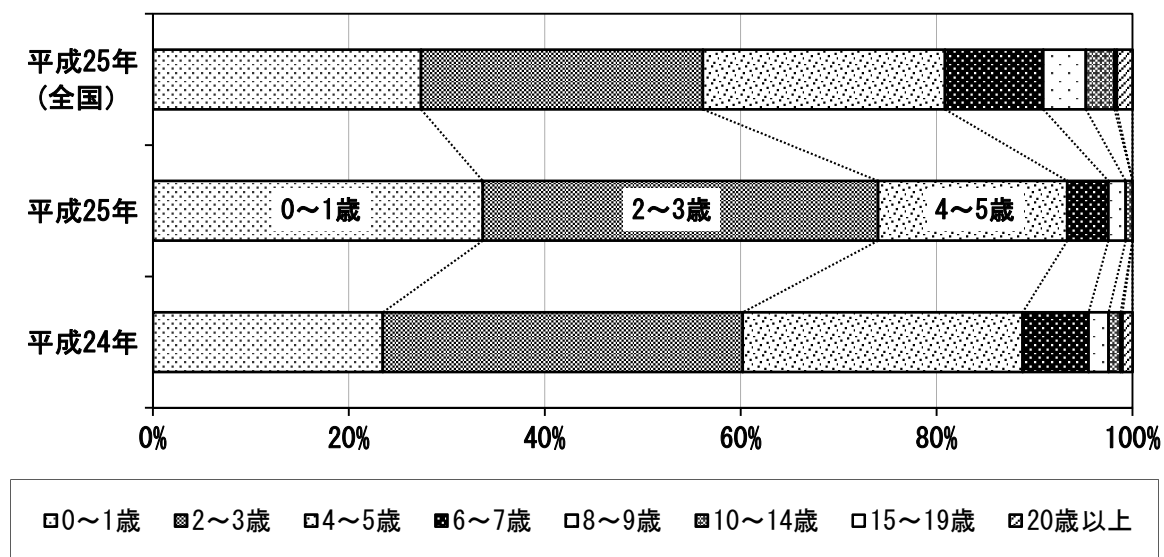
本疾患は、一般に4月ごろから増加しはじめ7～8月にピークを示し、秋にも小規模な流行が続いたりする年もあるとされる。本年は、第16週頃より報告数がゆるやかに増加し、第21週にピーク（0.83件／定点）を迎え、24週まで報告数のやや高い状態が続いた後、減少した。年間を通じて大きなピークも見られず、例年より低い状態で推移した。

年齢層別報告数は、1歳以下33.7%、2～3歳40.4%、4～5歳19.3%、6～7歳4.2%、8歳以上2.5%であり、5歳以下が約93%を占めた。

咽頭結膜熱の週別患者報告状況



咽頭結膜熱の年齢層別報告数



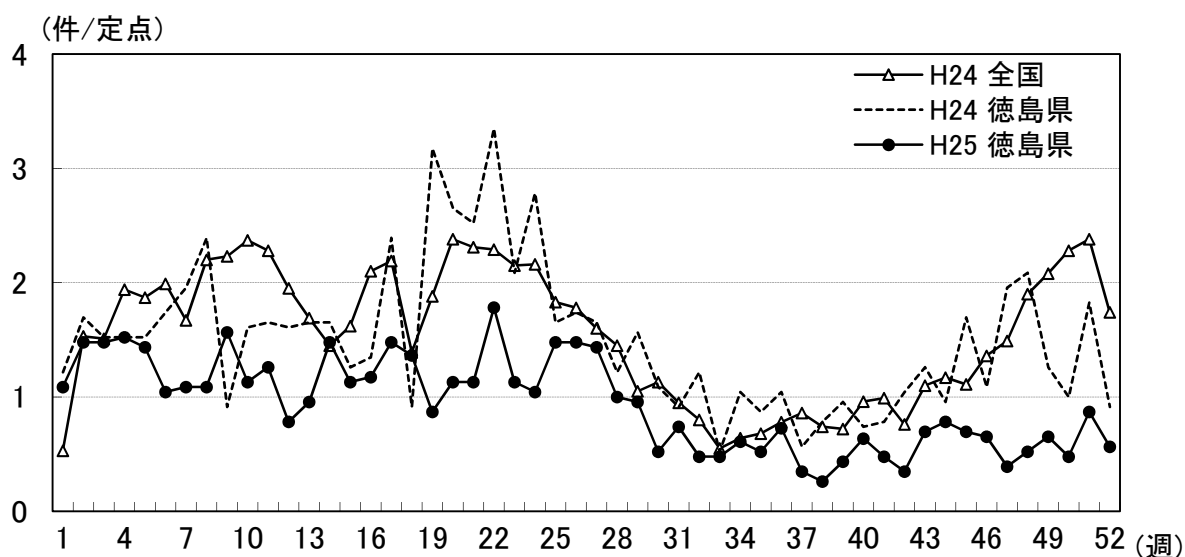
④ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間報告数は1,121件と、過去10年間では最も多い報告数となった前年（1,807件）より減少した。

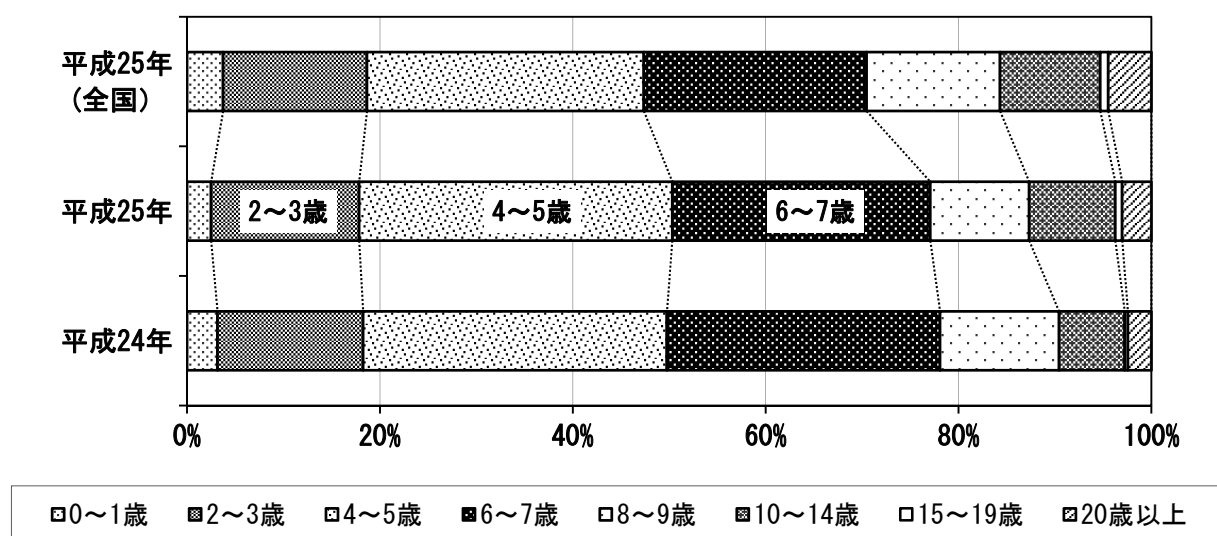
本疾患は、冬季および春から初夏にかけて報告数が増加するとされる。本年は、はっきりしたピークは見られず、第2週から29週、年の前半を報告数が高い水準で推移し、以降緩やかに減少し、年末まで低い状態が続いた。

本疾患は、いずれの年齢層からも報告されるが、学童期小児からの報告が多いとされる。年齢層別の報告数は0～1歳2.5%、2～3歳15.3%、4～5歳32.5%、6～7歳26.8%、8～9歳10.3%、10～14歳8.9%、15歳以上3.7%と、学童期小児の割合が高く、同様の傾向が見られた。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別患者報告状況



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢層別報告数



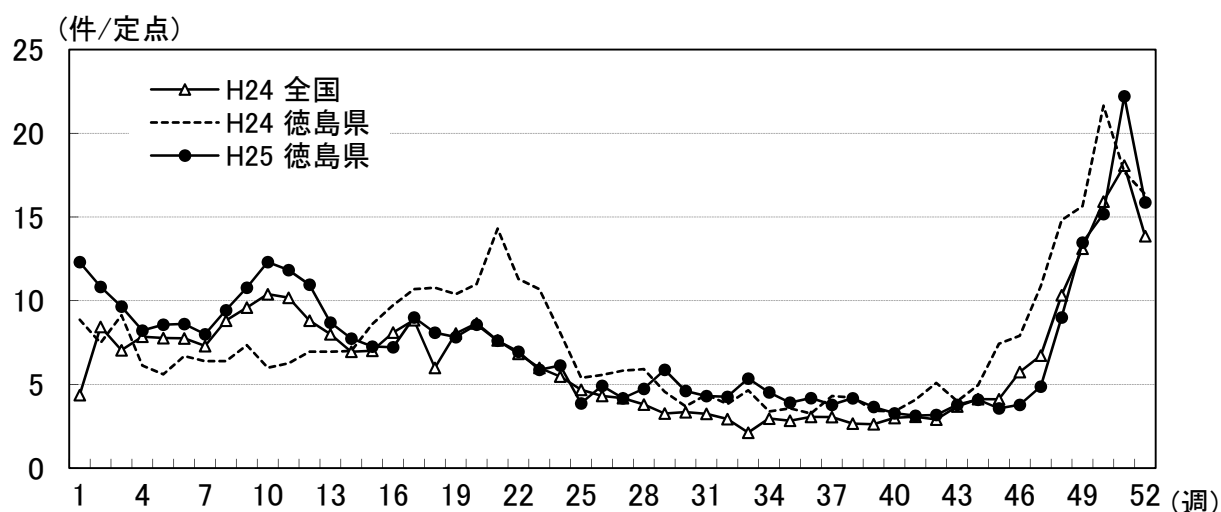
⑤ 感染性胃腸炎

年間報告数は8,820件、前年(9,263件)よりやや減少した。本疾患は、初冬から増加し始め12月頃に一度ピークができた後、春にもう一つなだらかなピークを示した後、夏から秋に向けて緩やかに減少するとされる。

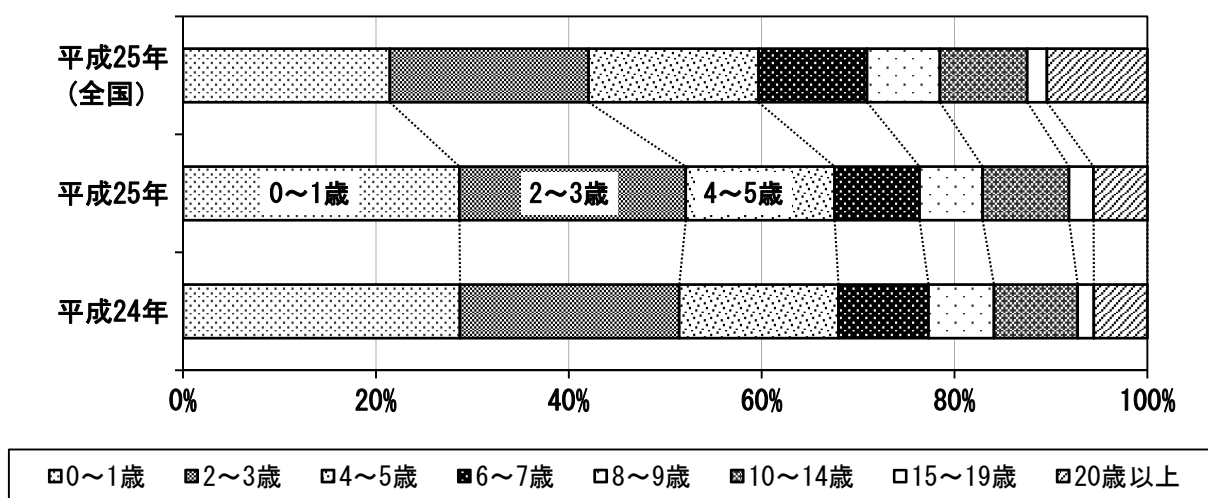
本年の前期流行は、前年の第46週頃より報告数が急増し始め、第50週にピーク(21.7件/定点)を示し報告数の高いまま越年した。その後、減少傾向を示したものの第7週より再び増加傾向となり、春先にあたる第10週に2度目のピーク(12.3件/定点)を示した後、以後、緩やかに減少し、6月～10月にかけては報告数が3～5件/定点前後で推移した。後期は11月中旬(第46週)から報告数が急増し始め、第51週に過去10年間で最も高いピーク(22.2件/定点)を示すなど大きな流行となり、流行が続いたまま越年した。

年齢層別報告数は、0～1歳28.7%、2～3歳23.5%、4～5歳15.4%、6～7歳8.8%、8～9歳6.5%、10～14歳9.0%、15歳以上8.1%と5歳以下が全体の約70%を占めていた。

感染性胃腸炎の週別患者報告状況



感染性胃腸炎の年齢層別報告数



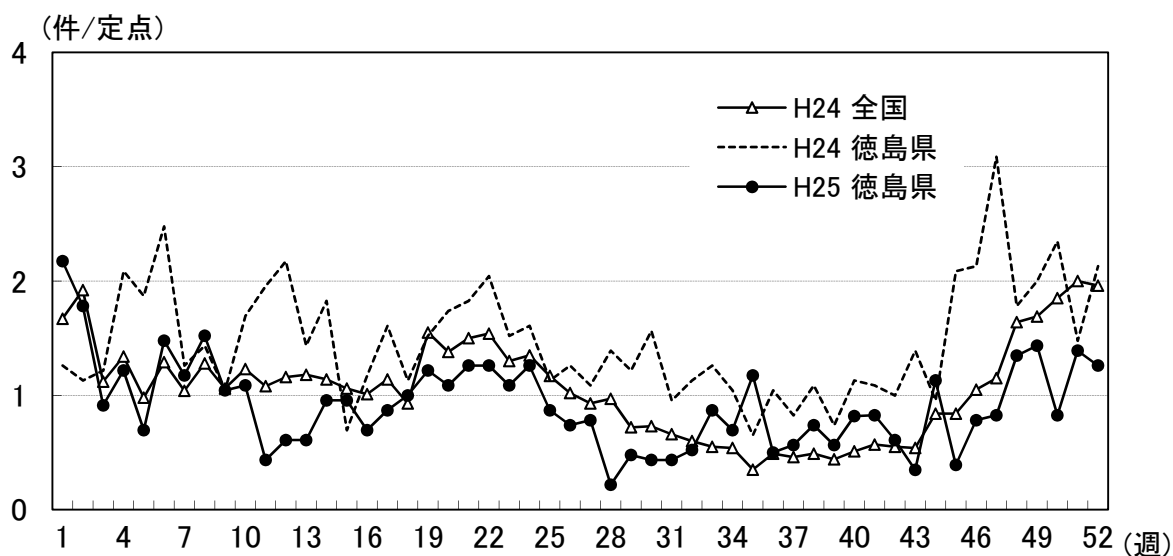
⑥ 水痘

年間報告数は1,101件であり、前年(1,765件)から大きく減少し、過去5年間で最も少ない報告数であった。本疾患は年間を通して発生するが、主に冬から春にかけて流行し、夏から初秋は減少するとされている。

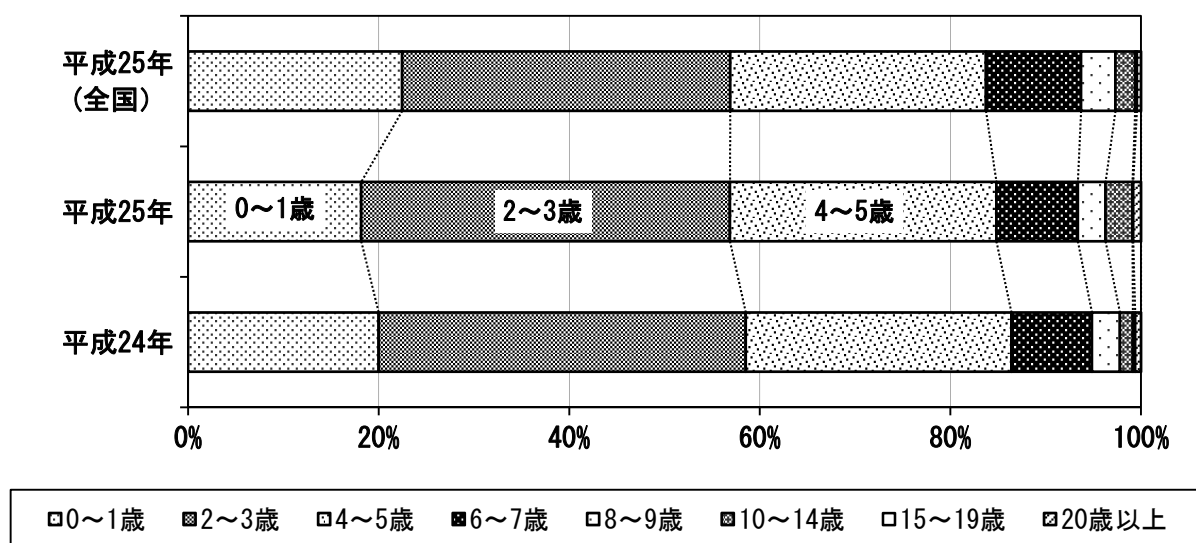
前年、第47週にピーク(3.1件/定点)を示し、年末まで高い(1.5~2.4件/定点)報告数のまま越年したことより、本年は、第1週が年間で最も高い報告数(2.2件/定点)を示し、第3週から年末まで、年間を通じ低い報告数(0.2~1.5件/定点)で推移し、流行は見られなかった。

年齢層別報告数では、0~1歳18.2%、2~3歳38.7%、4~5歳28.0%、6歳以上15.1%と5歳以下の報告が全体の約85%を占めた。

水痘の週別患者報告状況



水痘の年齢層別報告数



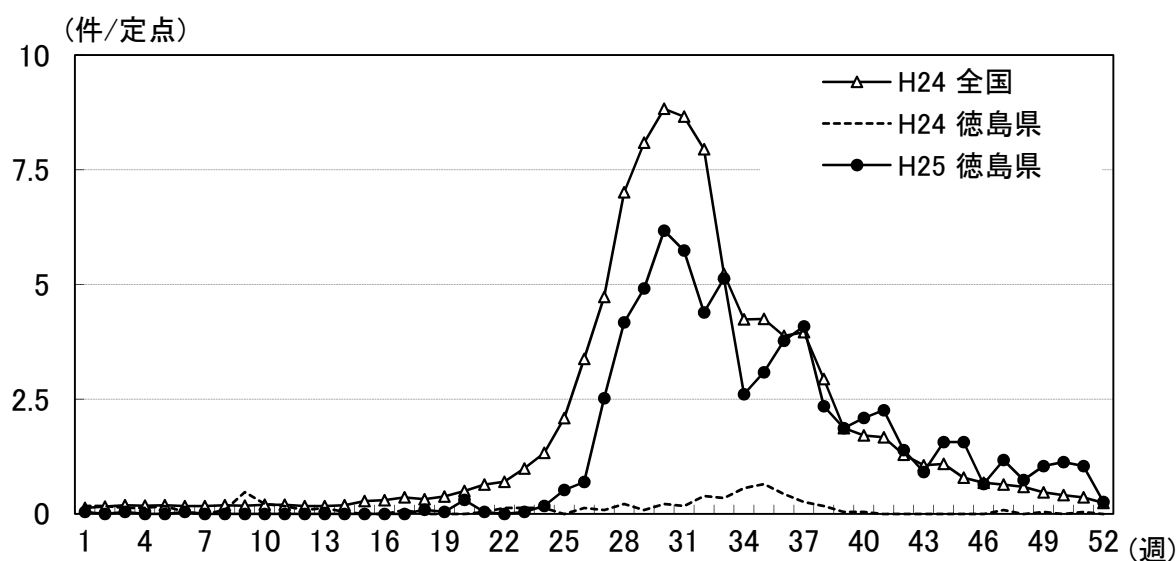
⑦ 手足口病

年間報告数は1,574件と、流行のなかった前年（151件）と比べ大きく増加した。

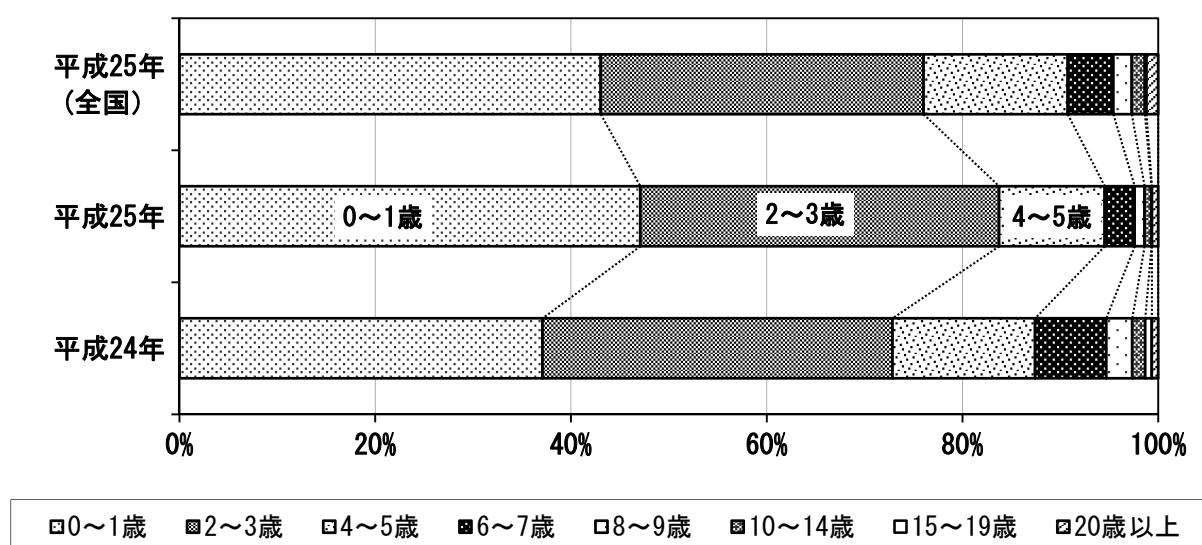
本年は6月初旬、第24週頃より報告数が急増し、第30週に1回目のピーク（6.2件／定点）を示した。その後減少傾向を示したものの第34週より再び増加し、第37週に2回目のピーク（4.1件／定点）を迎えるなど長い流行期間が続いた後、年末にかけ緩やかに減少した。

年齢層別報告数は、0～1歳47.1%、2～3歳36.7%、4～5歳10.8%、6歳以上5.4%と3歳以下からの報告が約84%、5歳以下では全体の約95%を占めており、前年と同様の傾向であった。

手足口病の週別患者報告状況



手足口病の年齢層別報告数



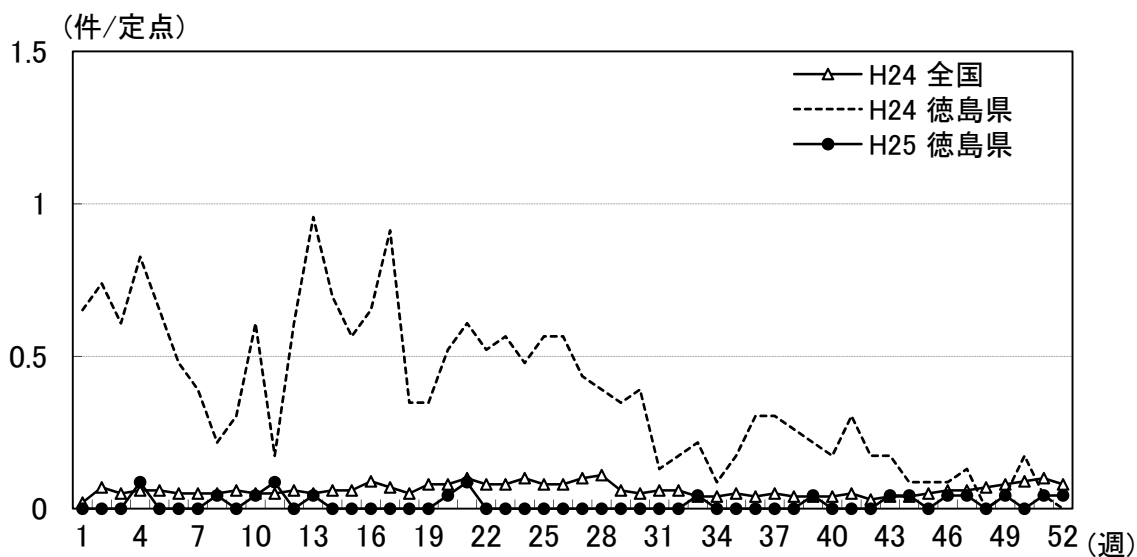
⑧ 伝染性紅斑

年間報告数は19件と、大きな流行となった平成23年（729件）及び前年（448件）に比べ、大きく減少した。

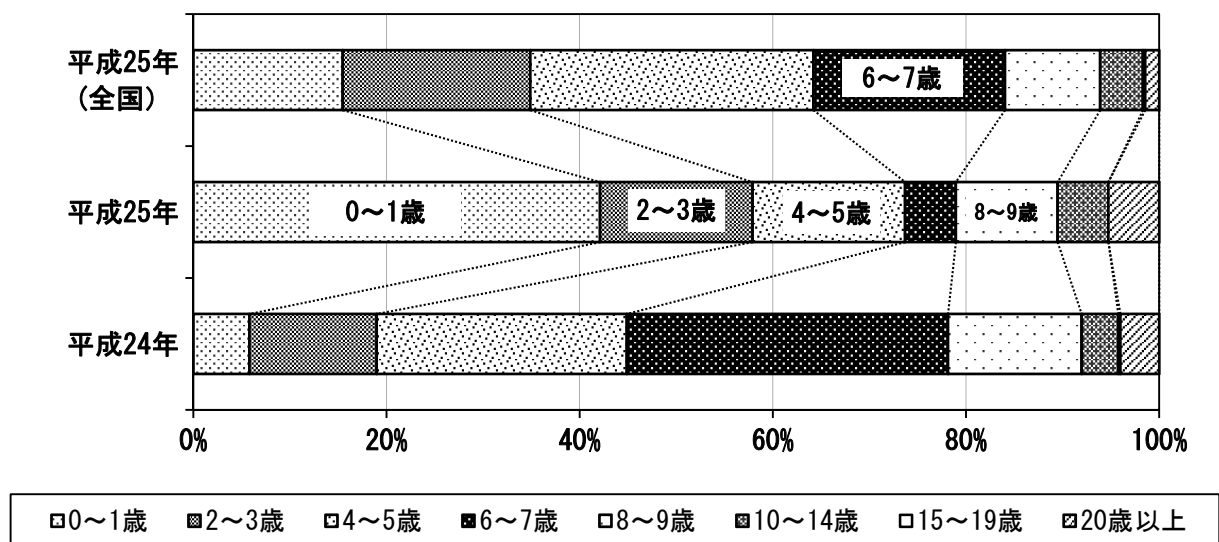
最も多かった週でも報告数は（0.1件／定点）と年間を通じて少なく、流行は見られなかった。

年齢層別報告数では、0～1歳42.1%、2～3歳15.8%、4～5歳15.8%、6～7歳5.3%、8～9歳10.5%、10歳以上10.6%と、10歳未満が全体の約90%を占めた。

伝染性紅斑の週別患者報告状況



伝染性紅斑の年齢層別報告数



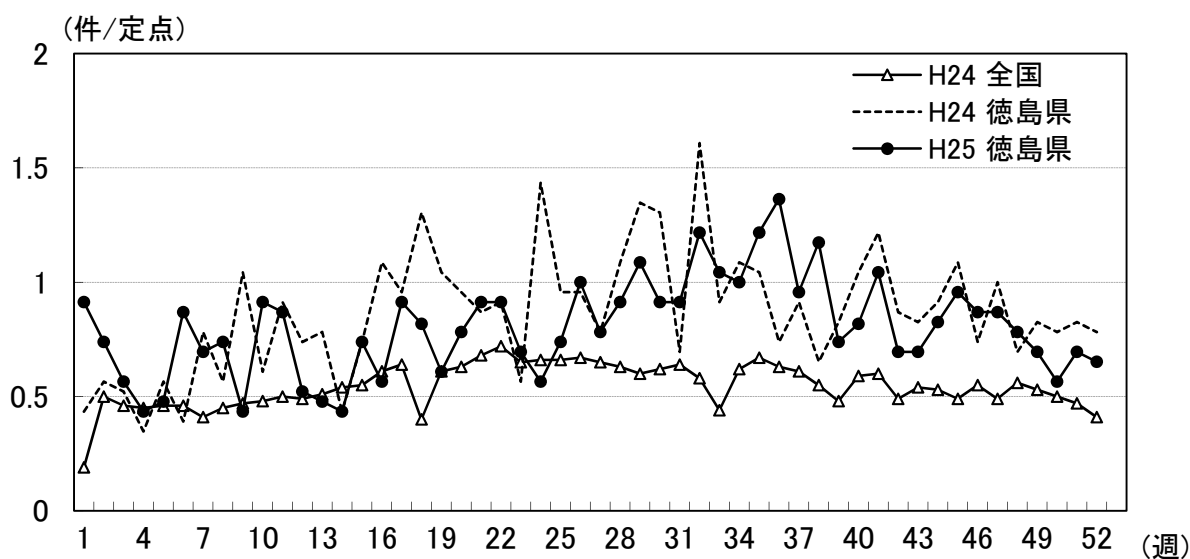
⑨ 突発性発しん

年間報告数は959件であり、前年（1,037件）からやや減少した。過去5年間をみても年間報告数に差は少なく、毎年約700～1,000件で推移している。

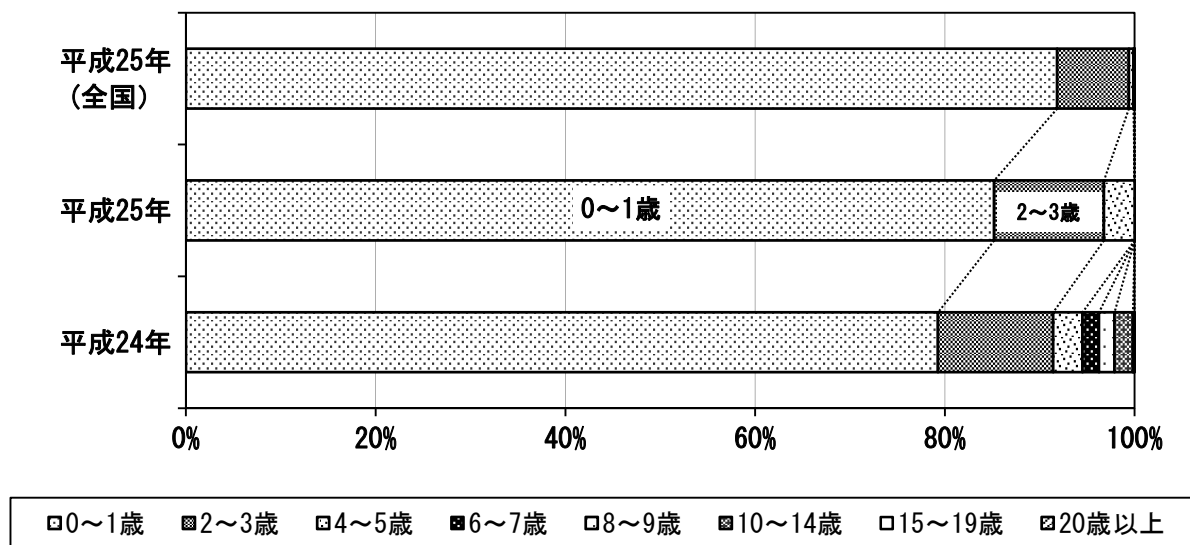
一般に本疾患は、季節性も年次推移も認められず、年間を通じてほぼ一定の範囲内をスパイク状の増減を繰り返しながら推移するとされる。本年も例年と同様に季節的変動は見られず、報告数は一定の範囲内（0.4～1.4件／定点）で推移した。

年齢層別報告数では、0～1歳85.2%、2～3歳11.6%、4～5歳3.2%と、例年同様、1歳以下が最も多く報告された。

突発性発しんの週別患者報告状況



突発性発しんの年齢層別報告数

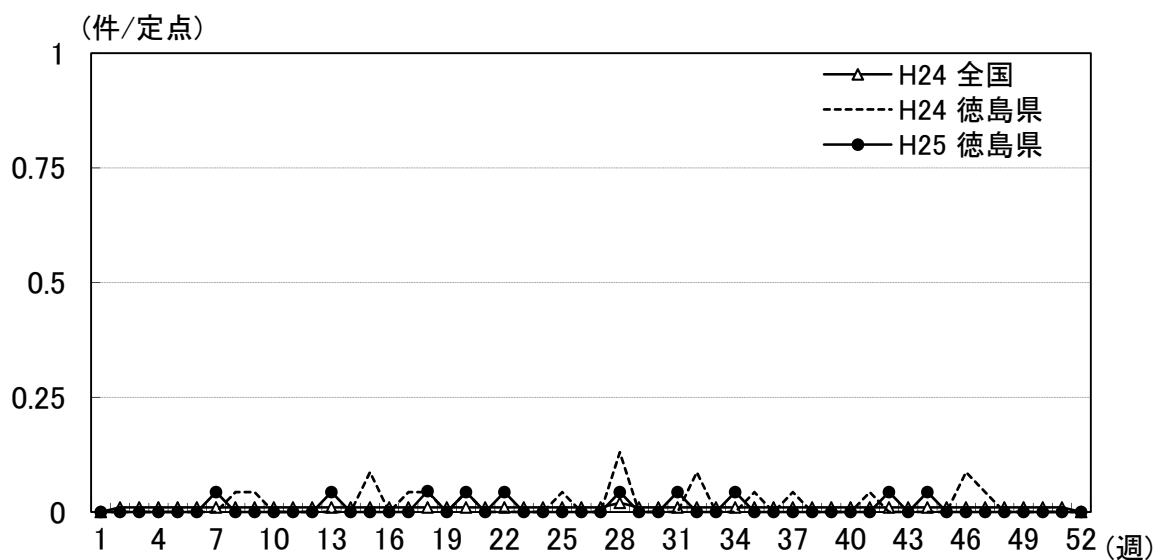


⑩ 百日咳

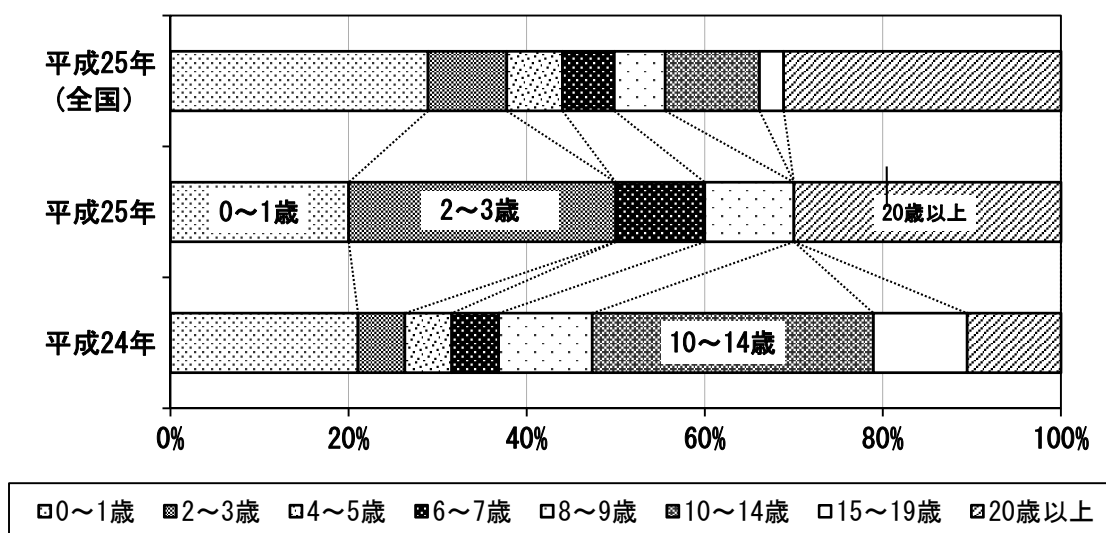
年間報告数は10件であり、前年（19件）や地域流行が見られた前々年（32件）から減少し、過去5年間で最も少なく、季節的な変動も見られなかった。

年齢層別報告数では、0～1歳 20.0%、2～3歳 30.0%、6～7歳 10.0%、8～9歳 10.0%、20歳以上 30.0%であった。

百日咳の週別患者報告状況



百日咳の年齢層別報告数



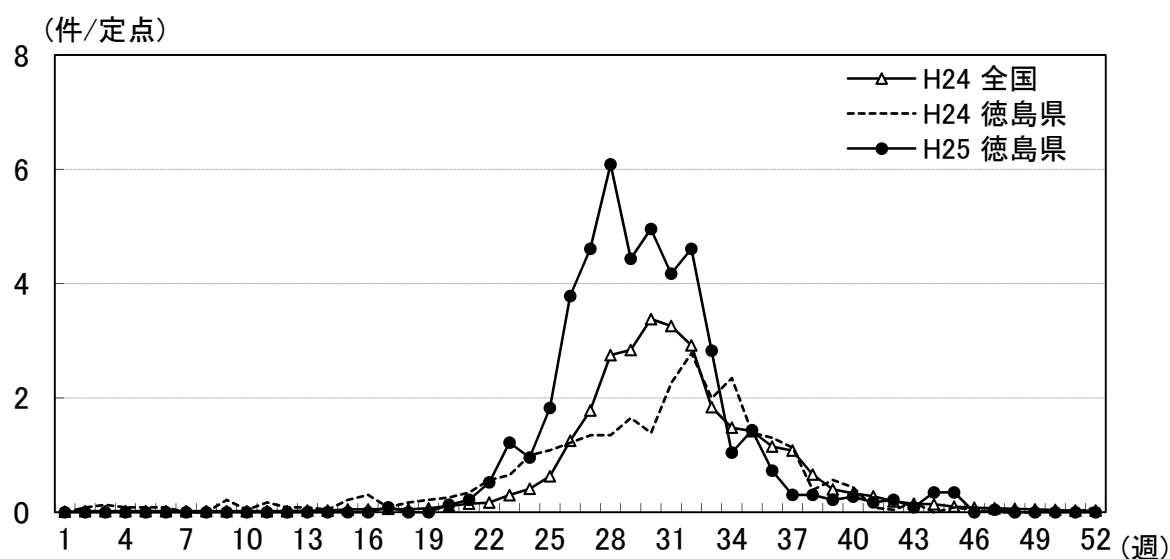
⑪ ヘルパンギーナ

年間報告数は1,056件と、流行の小さかった前年（648件）から大きく増加した。

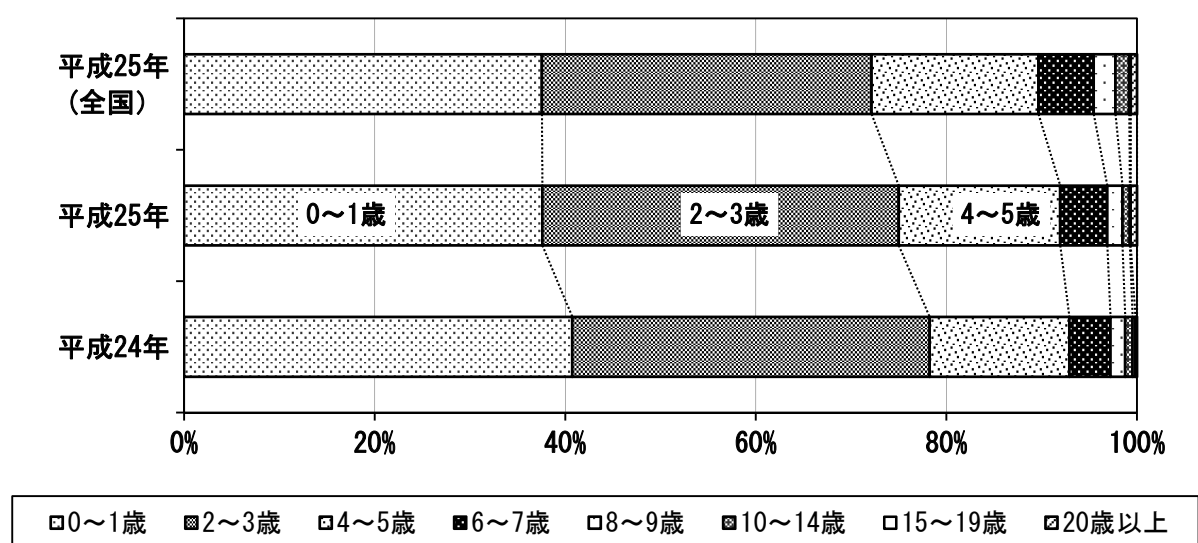
本疾患は、手足口病とともに主に乳幼児の間で流行する夏季の代表的な感染症である。本年は5月中旬、第20週頃より報告数が急増し、第28週にピーク（6.2件／定点）を示した。そして32週頃まで報告数の高い状態が続いた後、減少した。流行期間は例年より長く、ピークは前年（2.8件／定点）を大きく上回る流行となった。

年齢層別報告数では、1歳以下37.6%、2～3歳37.4%、4～5歳17.0%、6歳以上8.0%であり、3歳以下が約8割を占めた。

ヘルパンギーナの週別患者報告状況



ヘルパンギーナの年齢層別報告数

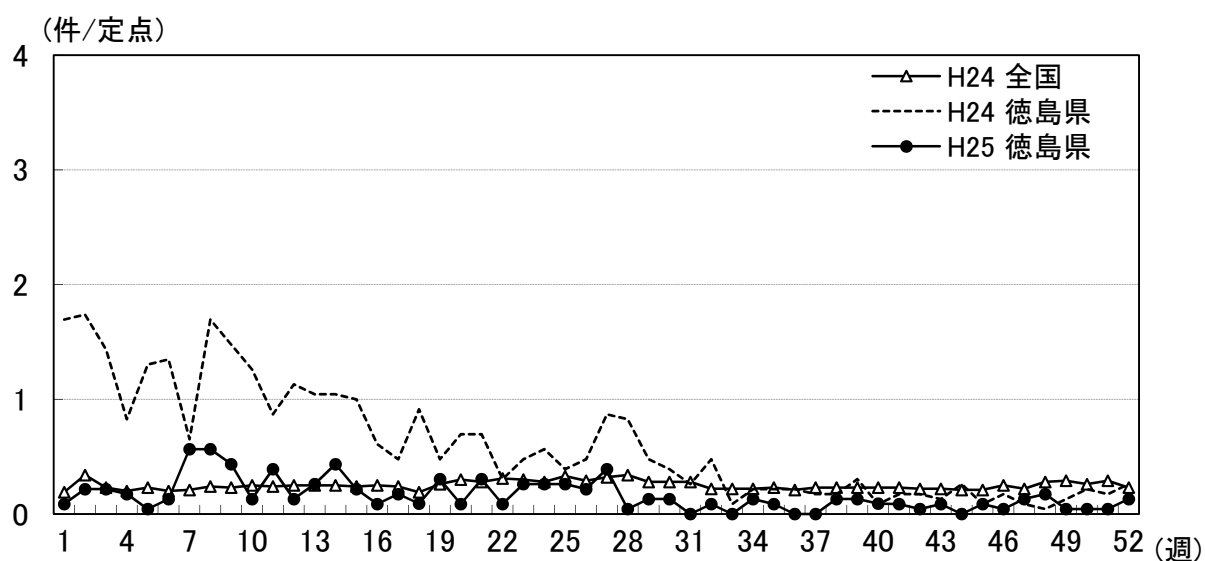


⑫ 流行性耳下腺炎

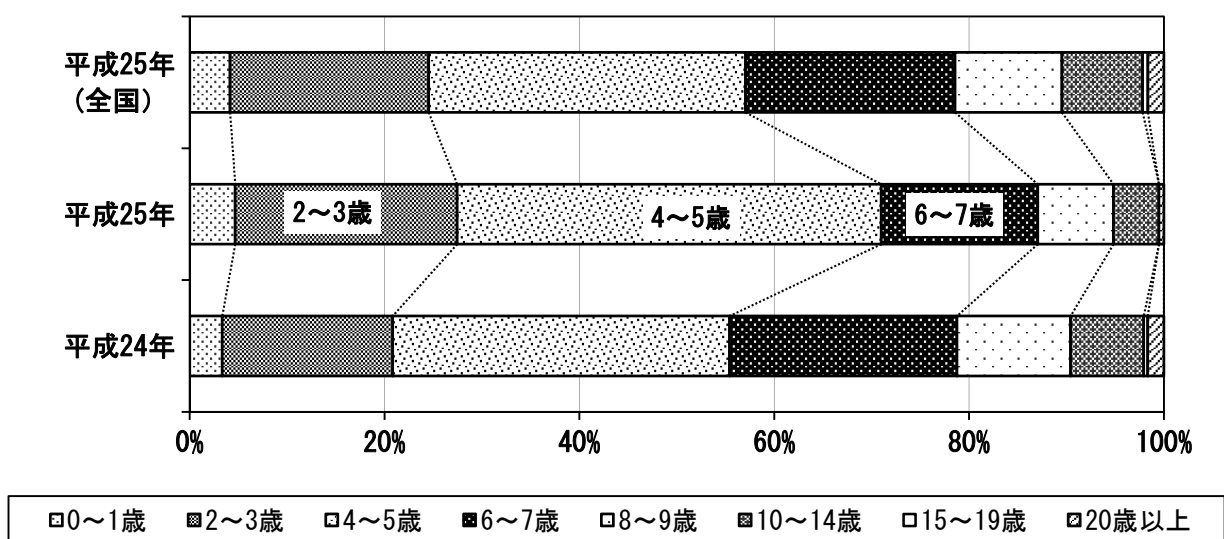
本疾患は、過去10年間のうち平成13、14年、平成17、18年、平成22、23年と、数年おきに2年続けて流行が見られたが、本年度の年間報告数は193件と、流行の見られなかった前年（720件）と比べても大きく減少した。季節的な変動も見られず、年間を通して、週当たりの報告数は0～0.6件／定点で推移し、流行は見られなかった。

年齢層別報告数では、1歳以下4.7%、2～3歳22.8%、4～5歳43.5%、6～7歳16.1%、8～9歳7.8%、10歳以上5.2%であり、例年同様に2～7歳の報告数が全体の約80%を占めた。

流行性耳下腺炎の週別患者報告状況



流行性耳下腺炎の年齢層別報告数

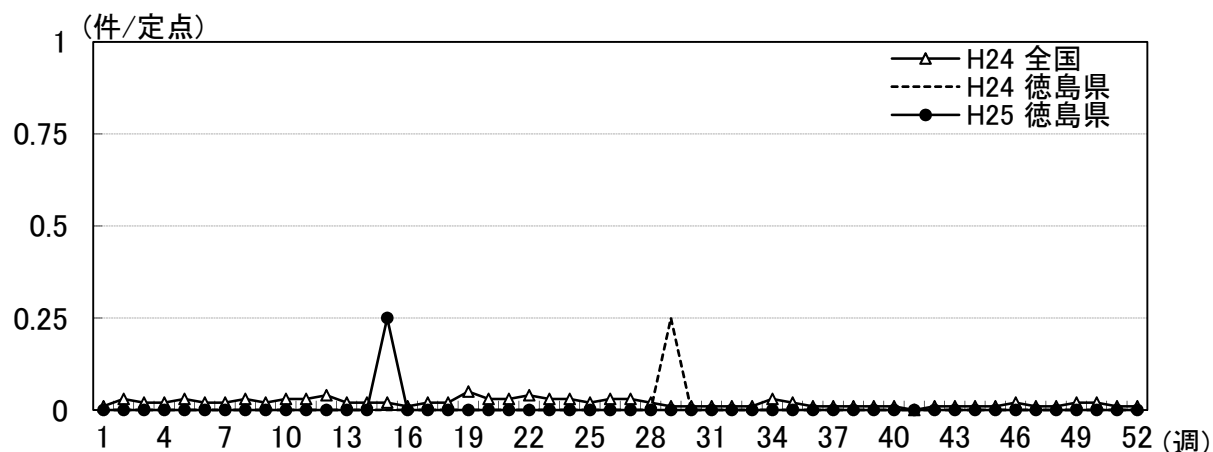


⑬ 急性出血性結膜炎

本疾患は局地的に流行することがあるが、流行のない年は季節性が見られず報告数は低いままで微増微減を繰り返すとされる。

年間報告数は1件、過去5年間でも毎年0～2件で推移し、徳島県内での流行は見られていない。

急性出血性結膜炎の週別患者報告状況

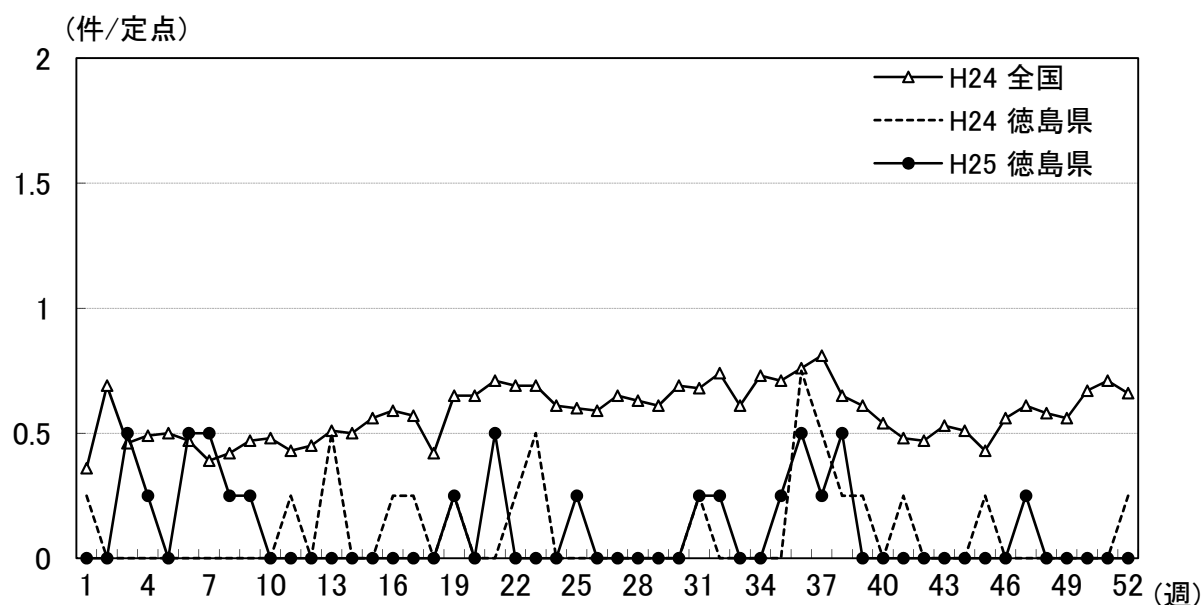


⑭ 流行性角結膜炎

年間報告数は22件であり、前年(21件)とほぼ変わらず、週あたり報告数も年間を通して0.5件／定点以下の低値で推移した。

年齢層別報告数では、10歳未満18.2%、10歳代4.5%、20歳代22.7%、30歳代31.8%、40歳代9.1%、50歳代9.1%、60歳代以上4.5%と、年齢による大きな差は見られなかった。

流行性角結膜炎の週別患者報告状況



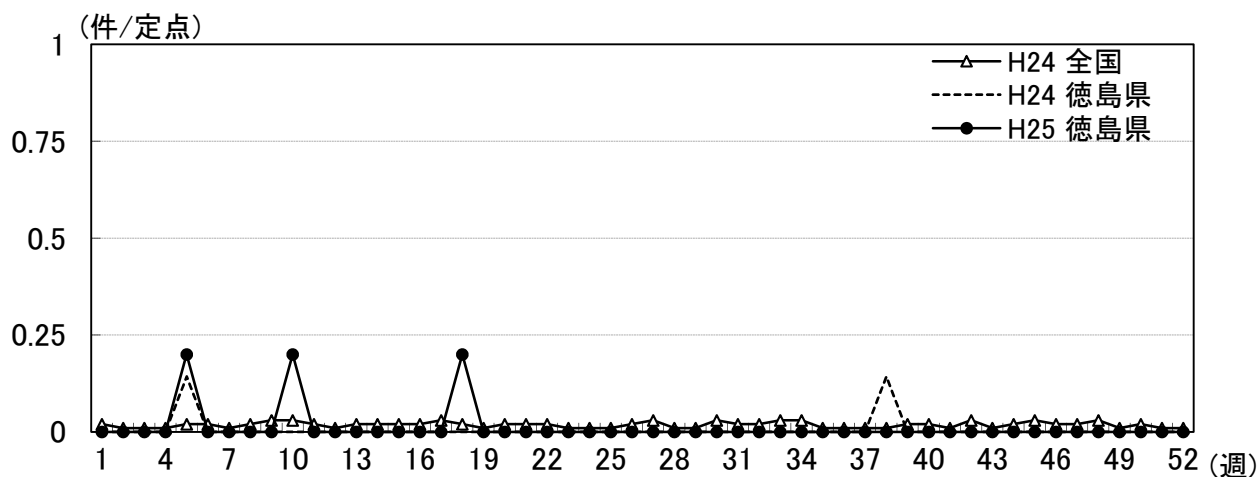
⑮ 細菌性髄膜炎

年間報告数は3件であった。過去10年間に於いても、最も報告が多かった平成22年（10件）を除くと年数件（0～5件）で推移している。

年齢層別報告数では、5～9歳1件、10～14歳1件、15～19歳1件であった。

病原体では、肺炎球菌が2件検出されている。

細菌性髄膜炎の週別患者報告状況

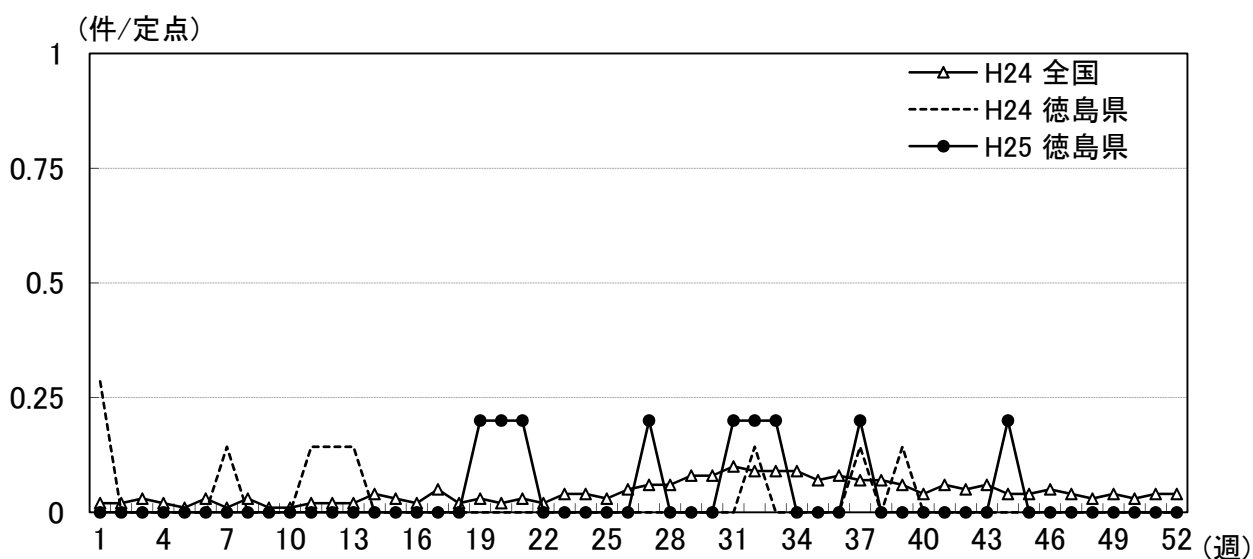


⑯ 無菌性髄膜炎

年間報告数は9件あり、前年（9件）、前々年（11件）とほぼ同数となった。発生時期は、5月から10月の半年に集中した。

年齢層別報告数では、5歳未満2件、5～9歳2件、10歳代2件、30歳代、40歳代、70歳代で各1件ずつ報告された。

無菌性髄膜炎の週別患者報告状況

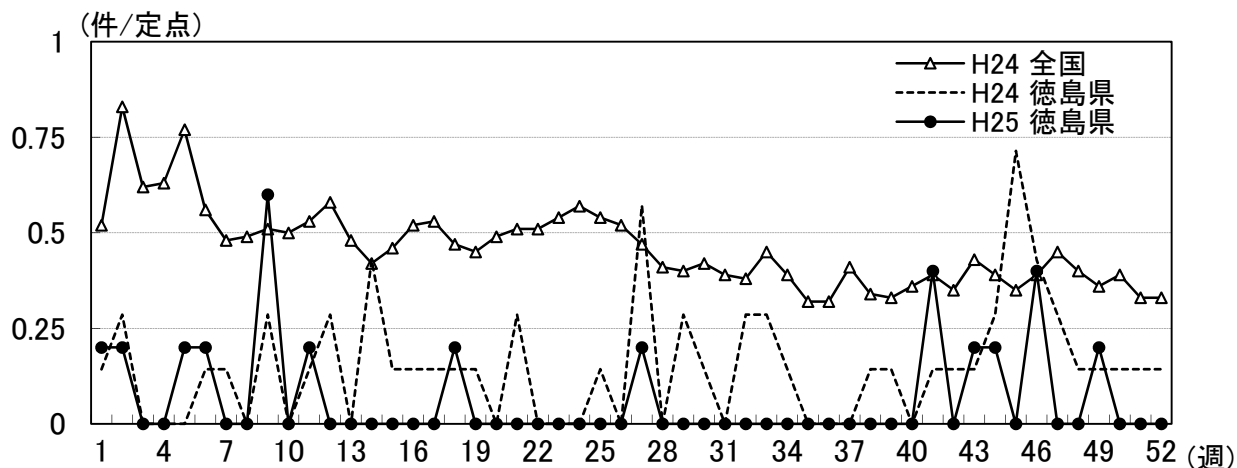


⑰ マイコプラズマ肺炎

年間報告数は17件であり、前年（55件）、前々年（88件）に比べ大きく減少した。年間を通じて発生がみられたが、週あたり報告数も年間を通して0～0.6件／定点の低値で推移した。

年齢層別報告数では、5歳未満29.4%、5～9歳58.8%、10～14歳5.9%、20歳代以上5.9%であった。例年同様に1～9歳の報告数が大半（約88%）を占め、幼児及び学童に多い傾向がみられた。

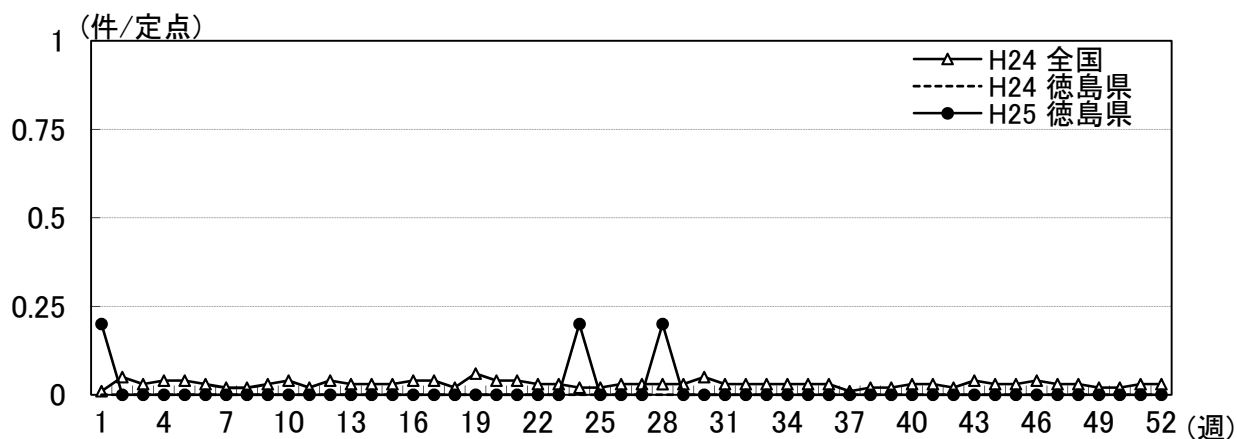
マイコプラズマ肺炎の週別患者報告状況



⑱ クラミジア肺炎

年間報告数は3件であった。過去5年間では、平成22年に1件報告があったのみであり、3年ぶりの報告となった。年齢層別報告数では、5～9歳1件、70歳代2件であった。

クラミジア肺炎の週別患者報告状況



⑲ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

ロタウイルスによる感染性胃腸炎が、平成25年10月14日より基幹定点による届出対象疾患に追加された。1件報告され、年齢は80歳代であった。